

## [12]九州大学韓国研究センターNews Letter

<https://hdl.handle.net/2324/2004821>

---

出版情報：九州大学韓国研究センターNews Letter. 12, pp.1-, 2012-03-30. 九州大学韓国研究センター  
バージョン：  
権利関係：



# ews 뉴스레터 2012 Vol.12 뉴스레터 Letter

九州大学韓国研究センター  
Research Center for Korean Studies

## C O N T E N T S

|                                                 |    |
|-------------------------------------------------|----|
| 12号の発刊にあたって .....                               | 2  |
| 小此木政夫特任教授 就任挨拶 .....                            | 3  |
| 日韓海峡圏カレッジ .....                                 | 4  |
| 第7回 世界韓国研究コンソーシアム・ワークショップ .....                 | 6  |
| 講演会・研究会・セミナー .....                              | 8  |
| 日韓海峡圏カレッジ講演会 .....                              | 8  |
| 韓国研究センター定例研究会 .....                             | 8  |
| 日韓海峡圏カレッジ 国際セミナー .....                          | 9  |
| 日韓海峡圏カレッジ シンポジウム .....                          | 10 |
| 申珏秀 駐日本国大韓民国特命全権大使 講演会「21世紀韓日関係と若者の役割」 .....    | 11 |
| 県民講座「韓国の歴史と文化」 .....                            | 12 |
| 客員教授紹介 .....                                    | 13 |
| 次世代研究者ノート油谷幸利先生の集中講義<br>——誤用分析:翻訳の奥深さに触れて ..... | 14 |
| 韓国研究センターの活動一覧 .....                             | 15 |

# 12号の発刊にあたって



九州大学韓国研究センター長  
松原 孝俊

韓国研究センターは2000年1月の開所以来、九州大学の掲げる「アジアに開かれた世界の拠点大学」を目指して様々な活動を今日まで展開して参りましたが、2011年度は日韓海峡圏の若者の人的交流を促進する架け橋となる機会を得ることができました。韓国研究センターは文部科学省採択事業「日韓海峡圏カレッジ」を新たに開始することができました。教育の国際化が進む中でこれからの大学は、多様な環境で育った若者が学びやすい場を創造し、互いの視野を広げられる制度を構築しなければなりません。とりわけ九州大学は韓国と一衣帯水の関係にあります。そのようななか、「日韓海峡圏カレッジ」は、日中韓の「CAMPUS Asia」構想のパイロットプログラムとして、日韓の九州大学と釜山大学を基軸とした教育・研究プログラムの構築と拡大を目指しています。

初年度の2011年度は両大学から10名ずつの大学1年生が選抜され、夏季休暇の際には互いのキャンパスを行き来して人材交流や企業研修を行うなど、大学交流を深化することができました。新聞やテレビの多くのマスコミでも取り上げて頂きました。この成果を活かして2012年度からは両大学から50人ずつ計100人規模の教育プログラムに拡大する予定です。国際交流で培われた柔軟な思考力、コミュニケーションスキル、応用力と自信はグローバルに活躍できる力につながります。ゆくゆくは外交官や銀行、商社、国際機関などで活躍できる人材を送り出したいと考えておりますが、たとえ仕事に直接結びつかなくとも、その国や東アジア地域の理解者を育てることはわれわれの社会をより成熟したものとするでしょう。

また、2011年度も各種の研究会や世界韓国学研究コンソーシアムなどを開催することができました。11月には申珏秀・駐日本国大韓民国特命全権大使が九州大学で「21世紀の韓日関係と若者の役割」をテーマに大学生に講演され、「日本の大学生は外向きになってほしい」と世界に目を向けるようアドバイスを送って下さいました。

世界と日本のかかわり合いがますます深くなるなか、韓国研究センターは、さらなる飛躍が求められております。2012年度も引き続き、教育と研究の充実と深化を中核に据えながら、日韓海峡圏カレッジをはじめ、各種の研究会、世界韓国研究コンソーシアム、福岡－釜山フォーラム、福岡県など九州の市民との連携などの事業に取り組んでいくとともに、新たなことに積極的に挑戦し続けていく所存です。

当センターは、皆様からのご支援によって運営されてきました。このご支援に応えるべく、今後もさらなる発展のために努力して参ります。今後とも、倍旧のご支援・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

# 小此木政夫特任教授 就任挨拶



九州大学 特任教授  
**小此木 政夫**  
(おこのぎ まさお)

1945年生まれ。韓国・北朝鮮の政治や国際政治を研究。ソウルの延世大学客員教授、慶應義塾大学現代韓国研究センター長、現代韓国朝鮮学会会長、慶應義塾大学法学部長などを歴任。慶應義塾大学名誉教授。2011年10月19日の日韓首脳会談において合意された「日韓新時代共同研究プロジェクト」の日本側委員長を務める。著書に『朝鮮戦争』（単著）、『市場・国家・国際体制』『ポスト冷戦の朝鮮半島』（編著）などがある。

「日韓海峡圏カレッジ」の事業推進のために、特任教授として九州大学韓国研究センターに赴任した小此木政夫です。前任校の慶應義塾大学にはちょうど40年間勤務し、法学部で助教授、教授、そして学部長を務めました。その他に、慶應義塾大学地域研究センターと現代韓国研究センター所長も経験しました。幸いなことに、九州大学には松原孝俊教授、濱田耕策教授、深川博史教授、出水薫教授など、多くの友人がおり、旧交を温めています。

私の主たる職務である「日韓海峡圏カレッジ」は、夏季および春季休暇を利用して、九州大学と釜山大学の学生がそれぞれ海峡を超えて共同で学び、二つのキャンパスを共有するという実験的な学生交流計画です。しかし、それが目指す究極的な目標は壮大であり、ただ単に日韓海峡を超えて交流するだけではありません。ヨーロッパで推進されたエラスムス計画と同じように、トランスナショナルな市民社会の形成を促進したり、将来のアジア地域統合に貢献したりできるような人材の育成を目指しています。

もちろんトランスナショナルな市民社会の形成に貢献するためには、その障害となるナショナルな問題について十分に理解を深めなければなりません。韓国、中国を含むアジア地域には依然としてナショナルな問題が山積しております。したがって、ときには心を強く持って激しく論戦しなければならないこともあるでしょう。日本人であることがつらくなるような経験をするかもしれません。学生たちには、それに立ち向かう勇気と努力が必要とされます。

教員の役割は昔も今も変わりません。ソクラテスの時代と同じく「産婆役」です。長期にわたって韓国や北朝鮮を研究し、学術・教育交流を積み重ねてきた者として、自分の経歴を生かしながら、韓国側と協力してよりよいプログラムを開発するとともに、日韓の学生が挫けないように叱咤し、激励したいと思います。

もちろん、私は研究者でもあります。その傍ら、これまでの研究を継続したいと思います。最近取り組んでいるのは、1940年代の国際政治と地域政治の交錯、すなわち朝鮮半島の分断についてです。第二次世界大戦中、連合諸国が朝鮮半島の将来をいかに構想したか、独立と統一が両立しない分断状況はいかに発生して定着したかなど、史料読解と歴史解釈に頭を悩ませております。

しかし、現在進行中の問題も無視できません。金正日死後の北朝鮮で、どのように金正恩体制が形成されつつあるのか。新しい指導体制の特徴はどのようなものなのか。分断体制の解消、すなわち南北共存と平和統一の道筋はどうなるかなどと愚考しております。

今後とも、皆様のご指導を賜れば幸いです。



# 日韓海峡圏カレッジ

rkcs.isc.kyushu-u.ac.jp/kaikyo/

한일해협권칼리지  
Campus Asia Pilot Program

## ◆日韓海峡圏カレッジ 開講！

平成23年度文部科学省採択事業として「日韓海峡圏カレッジ」が2011年4月よりスタートした。日韓海峡圏カレッジとは、九州大学と釜山大学校の新入生が2週間にわたって両大学で合同講義を行う新たなキャンパス共有の教育プログラムである。韓国研究センターはこれまでも福岡や釜山など海峡をはさんで向かい合う地域の歴史や交流、協力をテーマにシンポジウムやイベントを開いてきたが、国境を越えて活躍できる人材の育成にも新たに取り組んでいる。学生たちの東アジアの市民社会意識を醸成することを通じて、国境を越えて世界で活躍できる次世代リーダーの育成を目指す。

初年度の2011年度は九州大学と釜山大学校から各10名ずつの学生が選抜された。九州大学では、1年を通じて英語と韓国語の課外授業（マスタークラス）が提供され、グローバル社会で活躍するためのコミュニケーション能力・行動力の向上が図られている。また、夏休みには各1週間ずつの釜山大学校（キャンパス釜山）と九州大学（キャンパス福岡）で九州大学と釜山大学校の学生が、英語を共通言語とした特別講義、ディスカッションなどのグループ活動、日韓両国の企業でのインターンシップ、文化体験などを経験した。とくにインターンシップでは、各企業の経営理念と企業家精神に肌でふれるとともに、豊かで若い想像力を発揮する良い機会となった。2012年度からは九州大学と釜山大学校の学生50名ずつが、互いのキャンパスを行き来して学ぶ予定である。



## 日韓海峡圏カレッジ

－日韓海峡圏共通課題の認識－

キャンパス  
釜山  
(50名派遣)

キャンパス  
福岡  
(50名派遣)

リーダー教育

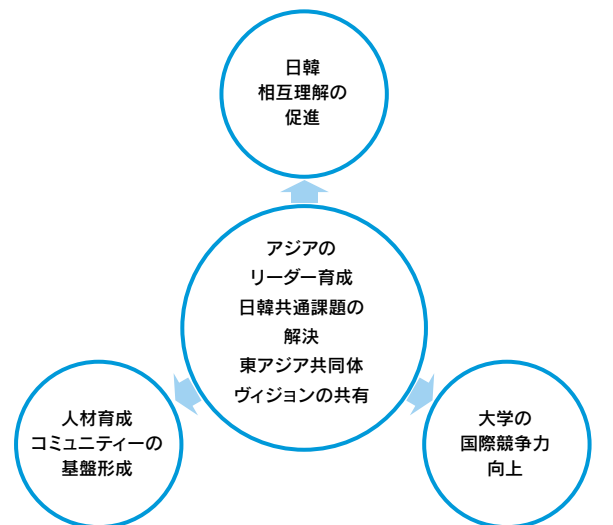
リーダー教育

韓国フィールド  
スクール

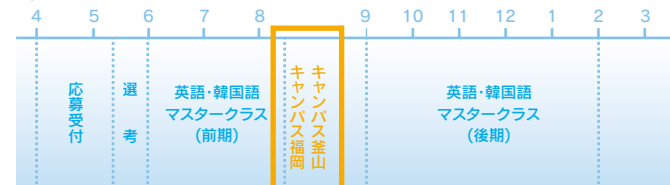
キャリア教育

日本フィールド  
スクール

キャリア教育



2011



※初年度(2011年度)は両大学から10名ずつ派遣。



## ◆年間スケジュール(九州大学)

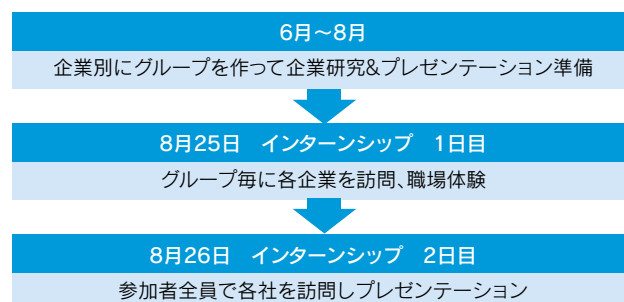
|                                                                                      |                                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 2011年6～7月 英語・韓国語マスタークラス(前期)                                                          |                                           |
| カレッジ参加者10名のみ受講できる会話中心の英語・韓国語教育。8月のキャンパス福岡・キャンパス釜山までに韓国の基本的な文化を交えつつ、英会話、韓国語会話を習得。     |                                           |
| 2011年8月 キャンパス・福岡、キャンパス・釜山                                                            |                                           |
| 8月16日                                                                                | 九州大学カレッジ生、福岡から釜山へ出発。                      |
| 8月16日～23日                                                                            | 【キャンパス・釜山】<br>釜山大学校にて特別講義、インターンシップ、文化体験等。 |
| 8月23日                                                                                | 九州大学・釜山大学校カレッジ生、ともに釜山から福岡へ。               |
| 8月23日～29日                                                                            | 【キャンパス・福岡】<br>九州大学にて特別講義、インターンシップ、文化体験等。  |
| 8月30日                                                                                | 釜山大学校カレッジ生、福岡から釜山へ帰国。                     |
| 2011年9～2012年2月 英語・韓国語マスタークラス(後期)                                                     |                                           |
| 後期の特別授業では、単に「話せる」だけではなく、課題に沿ったプレゼンテーションやディスカッション、スピーチなどを集中的にトレーニングして、高いレベルの言語習得を目指す。 |                                           |
| 2012年2月 冬季プログラム                                                                      |                                           |
| 2月20日                                                                                | 九州大学カレッジ生、福岡からソウルへ出発。                     |
| 2月21日～22日                                                                            | フィールドワークなどの実地調査。                          |
| 2月23日                                                                                | 九州大学カレッジ生、ソウルから釜山へ出発。                     |
| 2月23日～24日                                                                            | 釜山大学校にて成果報告、ディスカッションなど。                   |
| 2月25日                                                                                | 九州大学カレッジ生、釜山から福岡へ帰国。                      |



## ◆キャンパス福岡・インターンシップの概要 ※日程:2011年 8月 25日～26日(2日間)

### 《プレゼンテーションのテーマ一覧》

1. やまやコミュニケーションズ株式会社  
「韓国および日本における年間行事としての贈答において、食品分野ではどのような戦略が有効だと考えるか」
2. 九州電力株式会社  
「日本(または韓国)におけるエネルギー消費の実態を踏まえ、省エネルギーを推進する有効策を提案すること」(具体的根拠を示すこと)
3. 住友商事九州株式会社  
「日韓をつなぐ起業アイデア～資本金100万円の挑戦～」



# 第7回世界韓国研究コンソーシアム・ワークショップ

- ◆主 催：世界韓国研究コンソーシアム
- ◆助 成：韓国国際交流財団
- ◆開催日時：2011年6月6日～8日
- ◆会 場：ロンドン大学東洋アフリカ研究学院  
(The School of Oriental and African Studies (SOAS), University of London)

世界韓国研究コンソーシアムの第7回ワークショップが、2011年6月6日から8日にかけてロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (SOAS) で開催された。世界韓国研究コンソーシアムには世界の12大学の韓国研究センターが所属しているが、その他の大学も含めて世界7カ国19大学から27名の次世代韓国学研究者が報告者として参加し、自らが進めている研究活動の一端を発表した。また、高麗大学の崔徳寿教授とオーストラリア国立大学のルース・バラクロウ講師の講演もなされた。

ロンドン大学はロンドン中心部ラッセルスクエア周辺の文教地区にあり、世界中から学生や研究者が集まっている。SOASは、そのようなロンドン大学のカレッジであり、1916年に設立された。地域研究や言語文化研究において世界屈指の研究・教育機関であり、英国では高等教育機関のなかで唯一、アジア・アフリカ・中近東研究を専門とする。韓国学に関しては、韓国学センターが1987年に韓国学術振興財団の助成で設立され、その後は韓国国際交流財団の支援を受けながら英国の学術的拠点として先導的な地位を築いてきた。今回のワークショップは、このように素晴らしい環境において、SOAS韓国学センターのカールソン (Dr. Anders KARLSSON) 上級講師とスタッフの方々の尽力によって開催された。

今回のワークショップで特徴的であった点は、総合テーマとして「CROSS-FERTILIZATION AND SYNERGY: EXCHANGING IDEAS ON THEORY AND METHOD IN KOREAN STUDIES」が掲げられ、学際的かつ大胆な問題提起がなされたことであった。言語、文化、歴史、政治、経済、法律など異分野の研究者が集まって韓国学全体を学際的に研究しようという試みは、一見無関係と思われるトピックの間に接点を提供するとともに、相互交流と相乗効果を容易にし、韓国学のさらなる発展に大きく貢献するものである。ワークショップでは、多彩な発表・討論を通して、韓国学をどのように理解したらよいのかが、焦点の1つとなった。次世代を担う若手研究者たちは自分の研究テーマの提示のみならず、方法論的問題にアプローチすることが求められたが、さらに研鑽を積むための刺激的な機会に恵まれることとなった。実際、韓国学を基点に多彩な切り口で語られる報告は率直な議論を呼び起こし、まさに次世代研究者の世界的ネットワークの「深化」に向けて大きな弾みを与えることとなったのである。

SOASでのワークショップの独創性と先見性は光っており、新風を吹き込んだ。韓国学がグローバルしつつあるなか、次世代の研究者たちは世界を舞台に個性を競い合わなければならない。国際社会で生きていく皮膚感覚も違ったものになり、ものの見方も、より複眼的で幅広くなる必要があろう。かつては少数の知識人が自然科学から人文科学まで幅広くカバーする時代が続いたが、研究分野が専門化する一方で学際的な研究も進むなか、様々な研究者が刺激しあう「知の拠点」としての世界韓国研究コンソーシアムの存在感が増してきたようだ。これまで個々の研究領域で蓄積してきた膨大な成果を、どのようにその垣根を越えて韓国学の発展に結びつけられるか。世界韓国研究コンソーシアムは、個々人の細い糸をさらに強いネットワークにし、グローバル化社会の国境を越えた問題にも取り組むことができるように努力を続けていかなければならない。



|                                                              |                                  |                                                                                                                                                           |
|--------------------------------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Panel 1 Chair and discussant: Ki Soo EUN (SNU)               |                                  |                                                                                                                                                           |
| Emma CABELL                                                  | ANU                              | Uri Nara, Our Nation: the Rise of a Globalised Cultural Nationalism in South Korea                                                                        |
| Chanchul JUNG                                                | UCL                              | Developing Cinema: Joseonese Cinema, 1927-1939                                                                                                            |
| Kyunghyo CHUN                                                | University of British Columbia   | Multiethnic, Multicultural, and Global: Multiculturalism in Practice in National Museums in Korea                                                         |
| Guohua LUO                                                   | Peking University                | 한국 SNS로 보는 한국 특유의 동아리 문화: 한국 트위터(Twitter) 사용현황을 예로 하여                                                                                                     |
| Panel 2 Chair and discussant:Deoksoo Choi (Korea University) |                                  |                                                                                                                                                           |
| Qunhan HAO                                                   | Peking University                | 조선 근대 전면적 개항 시행의 내외 요소 연구: <조미수호통상 조약>을 중심으로                                                                                                              |
| Woonwha JU                                                   | Yonsei University                | 일제하 조선정약전습소의 활동과 정약                                                                                                                                       |
| Sang Pil JIN                                                 | SOAS                             | A Study of late Joseon Neutralisation (1882-1907): Focusing on the Factors Affecting Neutralisation and Neutralisation Proposals                          |
| Panel 3 Chair and discussant:Ruth Barraclough (ANU)          |                                  |                                                                                                                                                           |
| Mascha PETERS                                                | Hamburg, Germany                 | Media and Politics in South Korea. Assessing the Impact of Media in the Context of Political and Societal Transformation Processes                        |
| Sana HO                                                      | Michigan State University        | Jangdokdae and its representation as traditional identity in contemporary Korea: Rethinking spatial approach in qualitative research                      |
| Sophie BOWMAN                                                | SOAS                             | Language Education and Multiculturalism in South Korea                                                                                                    |
| Panel 4 Chair and discussant:Grace KOH (SOAS)                |                                  |                                                                                                                                                           |
| Jack DAVEY                                                   | UCLA                             | Cities of the Living and the Dead: Mortuary Ritual and Political Legitimacy in Iron Age Korea                                                             |
| Eunae PARK                                                   | Korea University                 | <삼국유사>감통 김현감호조에 나타나는 신라 탑돌이의 양상과 성                                                                                                                        |
| Kiwan KIM                                                    | Yonsei University                | From Chu-tzu to Song-ja, the Iconography of Authoritative Icon                                                                                            |
| Panel 5 Chair and discussant:Anders Karlsson (SOAS)          |                                  |                                                                                                                                                           |
| Jaeho SHIN                                                   | University of Pennsylvania       | 조선 전기 변경지역의 조선화 과정                                                                                                                                        |
| Xing LIJU                                                    | Fudan University                 | 조선 유학자 南塘 韓元震의 人物性異論에 대한 고찰                                                                                                                               |
| Xioyi ZE                                                     | University of Hawai'i at Mānoa   | Self-Consciousness of National Identity as Reflected in the Snmguk Sagi                                                                                   |
| panel 6 Chair and discussant:Jaehoon Yeon                    |                                  |                                                                                                                                                           |
| Heeyeong JUNG                                                | University of Hawai'i at Mānoa   | Pitch and Gender: Presentation of a Professional Yet Friendly Teacher Persona                                                                             |
| Young Mi CHO                                                 | The Catholic University of Korea | 미국 청소년 대상 한국어 프로그램의 학습자 특성 연구: 미 국무성 주관 National Security Initiative for Youth 참가 청소년들의 사회적 정체성 형성을 중심으로                                                  |
| Euseon KIM                                                   | University of British Columbia   | The limits of Metapragmatic Analyses of Korean Honorification in the Enlightenment Period(late 19th c.~1910)                                              |
| panel 7 Chair and discussant:Dingchang SHEN (Peking)         |                                  |                                                                                                                                                           |
| Hiroshi INOOKA                                               | Kyushu University                | The EU and the DPRK: Democracy and Sanctions                                                                                                              |
| Keonsang KWAK                                                | Yonsei University                | Religion and Politics in Korea: Civil Religion, Catholicism and the Democratization                                                                       |
| Jung Soo JO                                                  | Leeds                            | Religion and Politics in Korea: Civil Religion, Catholicism and the Democratization                                                                       |
| panel 8 Chair and discussant:Ander Karlsson                  |                                  |                                                                                                                                                           |
| Doksoo CHOI                                                  | Korea University                 | Recent Research Trends in Korea and Japan on the Annexation of Korea                                                                                      |
| Ruth BARRACLOUGH                                             | ANU                              | Korean Studies in Australasia                                                                                                                             |
| panel 9 Chair and discussant:Grace KOH (SOAS)                |                                  |                                                                                                                                                           |
| Jamie Jungmin YOO                                            | Harvard University               | Discursive Communities and Performative Space: Book Trades in Liulichang in Beijing and Poetry Networks in Seoul in the late 18th Century                 |
| Deborah SMITH                                                | SOAS                             | Suicide and the Crisis of Agency in Modern Korean Fiction                                                                                                 |
| Dongho KANG                                                  | Yonsei University                | An Essay on Korean Literary History as a History of Conceptual History: Focusing on the Conceptual History of Korean Modern "Lyricism"                    |
| Han Sun KIM                                                  | Seoul National University        | 번역태도의 자국화와 이국화: 일본어 소설 <고도>(古都)의 영역 및 한역 비교분석                                                                                                             |
| panel 10 Chair and discussant:Anders Karlsson (SOAS)         |                                  |                                                                                                                                                           |
| Sungjo KIM                                                   | University of Toronto            | The Capitalist Modernity and Everydayness of the South Korean Peasants: the Spatial Rearrangement of Agricultural Production and Consumption in the 1970s |
| Hyunkyung LEE                                                | University of Cambridge          | The Post-Conflict Response of the Republic of Korea to Built Heritage during Japanese Occupation                                                          |
| Young Jae SHIM                                               | Sheffield                        | The Analysis of the Growth of the Size of the Korean State during the Chon Administration(1980-1987): Historical Institutional Approach                   |
| Joobong Lee                                                  | Korea University                 | 5·16 군사정부의 외교정책연구: UN정책을 중심으로                                                                                                                             |

# 講演会・研究会・セミナー

## 日韓海峡圏カレッジ講演会

### 二宮皓 国際的な大学連携と教育の質保証 —— CAMPUS Asiaに向けた諸課題

◆日 時：2011年 7月 9日(土) 14:00

◆場 所：九州大学箱崎キャンパス 創立50周年記念講堂 4階大会議室

比較教育学の泰斗である二宮皓教授(放送大学理事・副学長)を日韓海峡圏カレッジの講師として招聘し、CAMPUS Asiaに向けた諸課題について講演して頂いた。東アジア地域では経済面の関係が深化しているが、国際的な大学間交流も活発化しつつあり、交流する学生が、質の保証された教育を受けられるようにしなければならない。九州大学も例外ではない。しかし、東アジア各国間での学生交流を進めるにあたっては、この地域の各国での高等教育・大学システムそのものが多様であること、大学教育の質を保証する仕組みが国によって異なること、これらの発展度合いが国によって異なることなどを考慮に入れる必要がある。二宮教授は、日中韓3国を中心とする質保証をともなった東アジア地域の大学間交流の枠組み形成の課題を浮き彫りにするとともに、個々の教員の資質・能力の総合的な向上こそが不可欠であると提起した。



## 韓国研究センター定例研究会

### 第55回「日韓海峡圏カレッジ研究会 東アジアの過去と未来」

◆日 時：2011年5月24日(火) 14:00～18:00

◆場 所：韓国研究センター 1階 会議室

◆プログラム:

- 14:00～15:20 全京秀(ソウル大学校教授／韓国研究センター客員教授)  
「泉靖一の人類学探検と戦中人類学」
- 15:30～16:50 伊藤亜人(早稲田大学アジア研究機構教授)  
「北朝鮮社会の研究をめぐる」
- 17:00～17:40 座談会(全体討論並びに質疑応答)



全京秀教授

全京秀教授は、京城帝国大学の知的系譜に関する研究の一環として、今回の研究会ではとくに泉靖一(東京大学東洋文化研究所元教授)に光をあてた。この機会に韓国研究センターに訪問教授として滞在している間に発見した新資料の一部も紹介され、今日の人類学が泉靖一の行動力と人脈に大きく負っていることが説得力をもって語られた。他方、伊藤亜人教授は、自身が中心となって現在進行中の科学研究費のプロジェクトの一端を報告した。人類学的観点から、北朝鮮の生活現実と社会動向を生活者自らが語る重要性とそのような研究手法の可能性を提起した。報告後は討論者と参加者の間で活発な議論が展開された。



伊藤亜人教授

### 第56回 李潤相「現代韓国における‘伝統’と‘近代’の意味」

◆日 時：2011年11月4日(金) 14:00～16:00

◆場 所：韓国研究センター 1階 会議室

◆言 語：韓国語

李潤相副教授(昌原大学校史学科／韓国研究センター客員教授)の報告は、自身の専門である経済史研究の知見を踏まえつつ、世界史の連関の中に位置付けながら朝鮮半島の「衣」と「食」の変化を論じた。香辛料、トウガラシ、キムチ、じゃがいも、さつまいも、独床(독상)、タバコ、襦(저고리)、袴(바지)、袍(두루마기)、洋装、改良韓服などの多様な具体例を挙げた報告は、歴史学的な想像力を活性化させるものであった。李潤相副教授は、捨てるべきものが伝統という理由で存続されたり、強要されたりした近代がよそ者という理由で拒否されてはならないが、伝統としてそのまま固守すれば時代の流れに逆行した剥製化につながるだけであり、変化を当然のことと受け入れながら「新しい伝統」を創り出そうとする努力が必要であると語った。



李潤相副教授

## 日韓海峡圏カレッジ国際セミナー「日韓交流の過去と現在―共通課題を探る」

韓国の国民大学校日本学研究所との共催で「日韓海峡圏カレッジ国際セミナー」が開催され、様々な領域で活躍する日韓両国の研究者を交えて、過去と現在における日韓交流の優位性と限界、さらにその将来の可能性が吟味され、両国が共存する方途が議論された。両国の識者が率直かつ意欲的な意見交換を行い、互いに語り合うことの知的意味があらためて確認された。報告資料も簡単な冊子にして配布された。なお、当日の午前中には九州大学と国民大学校の大学院生間の交流会も開催された。



岡村教授

- ◆主 催：九州大学韓国研究センター・国民大学校日本学研究所
- ◆日 時：2011年9月30日(金) 13:00～18:00
- ◆場 所：九州大学 箱崎キャンパス 50周年記念講堂 4階大会議室
- ◆言 語：日本語・韓国語(同時通訳)
- ◆プログラム

13:00～13:10 開会の辞

松原 孝俊(九州大学韓国研究センター センター長)

13:10～13:55 基調講演

岡村 耕二(九州大学 情報基盤センター 教授)

「学術振興会日韓拠点大学事業の後で」

14:00～15:45 第一部 過去を振り返る―日韓国交正常化交渉

司 会 小此木政夫(九州大学 韓国研究センター 特任教授)

発 表 張 博珍(国民大学校 日本学研究所 研究教授)

「対日平和条約第4条の形成過程分析―日韓被害補償問題に対する『賠償』、『請求権』の異同―」

柳 美那(国民大学校 日本学研究所 研究教授)

「日本の文化財『返還』から見た植民地支配の『残像』、そして『清算』の虚像―1958年日本の第1次文化財返還までの交渉過程を事例として―」

李 旻珍(国民大学校 日本学研究所 研究教授)

「国交正常化以後の日韓経済協力論議構造―各経済協力会議の位相と役割を中心として―」

討 論 太田 修(同志社大学 グローバル・スタディーズ研究科 教授)

長澤裕子(学習院大学 東洋文化研究所 客員研究員)

新城道彦(九州大学 韓国研究センター 助教)

15:45～16:00 休 憩

16:00～17:45 第二部 現在を見つめる―日韓に共通する課題

司 会 李 元徳(国民大学校 日本学研究所 所長)

発 表 尹 宗煥(九州大学 応用力学研究所東アジア海洋大気環境研究センター教授)

「対馬暖流と古代日韓交流」

深川博史(九州大学 大学院経済学研究院 教授)

「越境する環境問題―黄砂の社会経済的分析―」

佐島頭子(福岡女学院大学 人文学部 准教授)

「日韓の漫画を通して見る隣国」

討 論 趙 胤修(東北亜歴史財団)

全 鎮浩(光云大学校 国際協力学部 教授)

金 榮美(国民大学校 国史学科 教授)

17:45～18:00 閉会の辞 李 元徳(国民大学校 日本学研究所 所長)



小此木教授、張教授、柳教授、李教授



太田教授、長澤研究員、新城助教



李教授、尹教授、深川教授、佐島准教授



佐島准教授



趙氏、全教授、金教授



日韓海峡圏カレッジの学生

## 日韓海峡圏カレッジ シンポジウム

## 「海峡圏における協力の可能性——EUの経験、日韓の未来」

九州大学韓国研究センターとEUIJ九州 (European Union Institute in Japan, Kyushu) の共催で、日韓海峡圏カレッジシンポジウムが開催された。学術的にも政策的にも非常に意義のある会議の終了後には懇談のひと時ももたれた。

◆主 催：九州大学韓国研究センター・EUIJ九州

◆日 時：2011年10月1日(土) 10:00~18:20

◆場 所：九州大学 箱崎キャンパス 国際ホール

◆総合司会：出水 薫(九州大学法学研究院 教授/韓国研究センター 兼任教授)

◆プログラム

10:00~10:10 開会の辞 松原孝俊(九州大学韓国研究センター センター長)

10:10~10:50 基調講演 張 済国(東西大学校 総長)

11:00~12:40 第1セッション「海峡圏の現状と課題」

山下 潤(九州大学 比較社会文化研究院 准教授)

加峯隆義(九州経済調査協会 調査研究部 次長)

12:40~14:00 休 憩

14:00~14:30 特別講演 武藤正敏(在韓大韓民国特命全権大使)

14:30~15:00 特別講演 高島宗一郎(福岡市長)

15:10~17:10 第2セッション「海峡圏と地域ネットワーク」

田中俊郎(慶應義塾大学 名誉教授、Global COE CGCS拠点リーダー、Jean Monnet Chair)

向井 剛(福岡女子大学 文学部 大学院文学研究科 教授、EUIJ-Kyushu副代表)

岩下明裕(北海道大学スラブ研究センター 教授)

17:20~18:10 全体討論「海峡をまたぐ生活圏の展望」

18:10~18:20 閉会の辞 向井 剛(福岡女子大学 教授、EUIJ-Kyushu副代表)



張済国総長は、「海峡圏における協力の可能性」と題して、地方の疲弊、中央集権の深化、中国巨大都市の強い吸入力、規模の経済の実現などの理由から、釜山と福岡が地域連携を通じて自生的競争力を確保する必要性を主張した。日韓海峡圏は、中央政府の受け皿ではなく、むしろ東北アジア初の超国境的協力に向けた創意的政策を東京とソウルに発信しなければならない。張総長は、EUの経験を参考として、釜山と福岡はともに地域性を脱し、超広域的次元の成長構想とシナジー極大化に向けた共同戦略を樹立する必要性を訴えた。

第1部でセッションでは、EUと福岡-釜山の海峡圏の現状と課題が議論された。山下潤准教授は、スウェーデン・デンマーク間のエーレスンド (Öresund/Øresund) 地域では、エーレスンド橋の架橋が両国間の流動性を活発化させ、ミクロな日常生活圏(通勤・通学圏)も形成されつつあるが、コペンハーゲン都市圏と南スウェーデンの各都市圏が一体となった広域的な二国間都市圏は実現してはいないと指摘した。他方、加峯隆義次長は、「福岡・釜山超広域経済圏の現状と課題」と題して、福岡-釜山超広域経済圏は、国際競争力の向上と地域活性化、日韓新時代の越境的な地域連携モデルや北東アジアの新国土発展軸をもたらしうるが、その実現のための「3+1」の基本方向(未来志向のビジネス協力促進、「海峡人」の育成・活用、日常交流圏形成、政府への共同要望)を示した。第1セッションでは、エーレスンドのDaily交流圏に対して福岡と釜山はweekly交流圏であり、広域的なレベルから見た海峡圏の課題が浮き彫りとなった。

午後は、武藤正敏大使と高島宗一郎市長の特別講演から始

まった。武藤大使は、「日韓は一つの経済圏へ」と題して、地域連携が先導する日韓の経済連携を展望した。日韓経済関係のさらなる強化に向けた第一歩としてEPA/FTA交渉を早期再開することが望まれる。武藤大使は、日韓の地域連携が国レベルの経済連携・一体化を進める「起爆剤」となる期待を表明した。高島市長は、アジアのリーディング都市を目指す福岡市の挑戦を紹介し、支店経済からの脱却、福岡・釜山インターナショナル国際戦略総合特区構想、アジアとの共生による経済成長について展望を語った。

第2セッションでは、海峡圏と地域ネットワークの鳥瞰図が示された。田中俊郎教授は、「How to make a Community through People-to-People Exchange」と題して、ERASMUS計画、日本の各EUセンター、ASEM、ASEF Universityの活動などを紹介しながら、EU統合の最大の意義が「不戦共同体」の実現にあることを示し、日中韓の学生交流の拡大を訴えた。向井剛教授は「海の向こうの技術と文学——毛織物商人W・キャクストンの起業」と題して中世の英仏海峡の交流を紹介した。政変で外交官の職を解かれたイギリス人が当時最先端の印刷技術を大陸で身につけて帰国し、技術革命をもたらした。岩下明裕教授は、世界の至るところで国境や境界を巡る紛争が起こっているが、福岡-釜山の海峡圏がむしろ国際政治的にはきわめて安定した地域であることを示唆するとともに、両者の中間に位置する対馬の戦略的重要性を指摘した。

申珪秀 駐日本国大韓民国特命全権大使 講演会

# 「21世紀韓日関係と若者の役割」

◆主 催：九州大学 法学研究院・韓国研究センター・日韓海峡圏カレッジ 共催

◆開催日時：2011年11月24日(木) 14:50～15:40

◆会 場：九州大学箱崎キャンパス文系地区 大講義室



2011年11月24日、にて、申珪秀駐日本国大韓民国特命全権大使が九州大学を訪問され、講演会が開催された。申珪秀大使は、在日大使館勤務の経験があり、知日派として知られる。講演会では、松原孝俊教授（韓国研究センター）が式辞を述べた後、小此木政夫特任教授の紹介を経て、申珪秀大使が挨拶を行い、「21世紀韓日関係と若者の役割」と題して講演された。

申珪秀大使は、21世紀における国際秩序の変化、日韓関係の変化及び日韓両国における若者の役割について流暢な日本語で講演された。大使は、確かに日韓関係には難しい側面も残されているが、日本での「韓流」ブーム、韓国での「日流」ブームなどお互い心理的距離が近くなるなか、日韓両国の「共生と協力」が重要であることの重要性を訴えた。最近現れている多様な協力の進展をさらに活かし、世界でもっとも活力あふれる北東アジアでの平和と繁栄を担う、より安定的かつ健全な日韓関係をつくりあげるためにも、両国の若者が広く世界に目を向けるとともにお互い手を携えるべきと提案された。

なお、講演会后、大使は有川節夫総長を表敬訪問された。



日本語で講演する申珪秀大使



申珪秀大使と小此木政夫特任教授

## 【申珪秀 駐日韓国大使の主な経歴】

1955年1月16日、ソウルに生まれる。  
 1977年 2月 ソウル大学法学科卒  
 1977年 3月 外務部入部  
 1979年 2月 ソウル大学大学院法学科・修士  
 1986年 1月 駐日韓国大使館・1等書記官  
 1990年 2月 外務次官補佐官  
 1991年 8月 ソウル大学大学院法学科・博士  
 1993年 8月 東北アジア第1課長  
 1995年 2月 外務長官補佐官  
 1995年12月 駐国連代表部・参事官  
 1998年12月 駐スリランカ大使館・公使参事官  
 2001年 2月 東アジアStudy Group担当審議官  
 2002年 1月 外交通商部・条約局長  
 2004年 2月 駐国連代表部・次席大使  
 2006年 2月 駐イスラエル大使  
 2008年 7月 外交通省部・第2次官  
 2009年11月 外交通商部・第1次官  
 2011年 6月 駐日大使（現在に至る）

# 県民講座「韓国」の歴史と文化

- ◆主 催：韓国研究センター主催
- ◆共 催：福岡県国際交流センター
- ◆開催日時：2011年12月2日(金) 14:00～16:30
- ◆会 場：アクロス福岡3F 「こくさいひろば」 交流室

- ◆講 師：濱田 耕策(九州大学人文科学研究院／韓国研究センター・教授)  
稲葉 継雄(九州大学人間環境学研究院／韓国研究センター・教授)

- ◆プログラム：
  - 14:00～14:10 松原孝俊 韓国研究センター長 挨拶
  - 14:10～15:15 濱田 耕策  
「新羅の対日本・唐交易－今日の視点から－」
  - 15:15～15:25 休憩
  - 15:25～16:30 稲葉 継雄  
「韓国人の意識構造－体験に基づく私見－」

- ◆参加者：40名



松原孝俊教授の挨拶

韓国研究センターは、福岡県国際交流センターとの共催で県民講座「韓国の歴史と文化」を開催した。

韓国の歴史ドラマが日本へ次々紹介されているが、韓国の歴史ドラマをきっかけに韓国の歴史や言語の勉強を始めた人は少なくない。そのことを念頭に置いて濱田教授は、新羅時代の日朝関係をわかりやすく紹介した。まずパワーポイントを利用して韓国の雁鴨池遺跡と正倉院の遺物の共通点を視覚的に紹介した。正倉院は壮大なシルクロードの終着駅とも言われているが、新羅時代の貴重な文物も多く遺されている。さらに濱田教授は、原典資料も解題しながら当時の北東アジア（日中韓）の交易を具体的に裏付け、参加者たちを古代史に誘い、歴史学の醍醐味を伝えた。質疑応答では、ドラマと史実との違いなどについての質問がなされた。

稲葉教授は、かつて自らが故馬越徹氏（名古屋大学・桜美林大学名誉教授）とともに翻訳した尹泰林著『韓国人——その意

識構造』（高麗書林、1975年）を振り返りながら、自身の体験を踏まえて韓国人と日本人の意識構造の違いを伝えた。国や民族にはその国や民族特有の価値観、文化、性格、習慣、物の考え方があるが、韓流ドラマが普及した今日の日本でも、依然として韓国の社会文化的な脈絡には深く知られていない部分も多い。稲葉教授の講演は、軽妙なユーモアを交えつつ、日韓の意識構造の違いを踏まえた上での市民レベルの交流の活性化こそが両国のさらなる関係改善をもたらすと参加者に呼びかけた。

参加者から回収したアンケートでは比較的に好意的な意見が多く、韓国の歴史や文化についての関心が増したようである。さらなる講演会の開催と継続を望む声が多かった。今後も韓国研究センターでは、このような講演会を様々なテーマで開催できるようにうまく講演者と参加者のニーズを合致させながら、学内外の豊富な研究成果を積極的に社会に広く発信していきたい。



濱田耕策教授



稲葉継雄教授

客員教授紹介



**全京秀** (전경수)  
ソウル大学校 教授

- (1) 主要研究領域は文化理論、生態人類学、人類学史であり、地域は中央アジア、ラテンアメリカ、ベトナム、沖縄、韓国と多岐にわたる。
- (2) 1981年から1982年にかけてミネソタ大学で講師を務め、1982年から現在のソウル大学校社会科学大学に移り、教授となった。日本国立民族学博物館客員教授(1997~1998)、東京大学外国人研究員および非常勤講師(2003~2004)、中国の雲南大学客員教授(2009~2013)をはじめ、九州大学、山口県立大学、山口大学客員教授を歴任。また、韓国文化人類学会会長、済州学会会長、文化財委員も歴任し、現在は琉球・沖縄学会会長、近代書誌学会会長。2011年度の「ソウル大学校学術研究賞」(Best Researcher Award in SNU)を受賞した。
- (3) 近年は日本人類学史に関心を持っており、とりわけ京城帝国大学教授たちの活動に焦点を当ててきた。これを私は「京城人類学派」と呼んでいる。九州大学滞在中は日本各地を広くめぐり、資料を収集することができた。その成果として、韓国研究センターの定例研究会にて泉靖一の京城時代の足跡に関して報告することもできた。
- (4) 代表的な業績は以下の通り。  
「京城帝國大學の學術調査と「京城學派」の誕生:人類學分野にフォーカスを合わせて」『朝鮮學報』214(2010年)、1-62頁。  
『일본열도의 문화인류학』서울: 민속원, 2011.



**尹龍燦** (윤용혁)  
公州大学校 教授

- (1) 1952년 木浦에서 출생하여 光州高等學校와 公州師範大學 歴史教育科를 졸업하고, 高麗大學校 大學院에서 碩士와 博士學位를 받았다. 1980년부터 현재까지 公州大學校 歴史教育科 교수로 재직하면서, 公州大의 博物館長, 百濟文化研究院長, 大學院長, 그리고 湖西史學會長, 韓國中世史學會長 등을 지냈고, 지금은 國史編纂委員會의 國史編纂委員을 겸하고 있다.
- (2) 1974년 대학원 입학 이후 지금까지, 13世紀 高麗와 對蒙골 關係史, 그리고 地域史에 대한 연구를 병행해왔다. 高麗時代의 論著로서는『高麗 對蒙抗爭史 研究』(1991),『高麗 三別抄의 對蒙抗爭』(2000)『麗蒙戰爭과 江華都城 研究』(2011) 등이 있는데, 2006년 國立海洋文化財研究所에의 派遣 研究를 계기로 고려시대 海洋史에 대한 문제로 관심 영역을 넓혀, 논문집『韓國 中世 海洋史研究』의 출간을 준비 중에 있다.
- (3) 地域史에 대한 연구와 시민 활동을 병행하여 地域史에 대한 논문집『公州, 歷史文化論集』(2005),『忠清歷史文化 研究』(2009)『輕部慈恩의 百濟文化研究』(2010) 등을 출간하였으며, 역사를 토대로 한 文化 活動, 韓日 지역 시민간의 國際交流를 모색하는 地域社會 活動을 20년 이상 지속하고 있다. 최근에는 지역의 역사를 국가의 역사, 그리고 다른 나라의 역사까지 연계하여, 지역, 국가, 동아시아 세계를 통합적으로 이해할 수 있는「歷史 素材」의 개발에 관심을 가지고 있다.
- (4) 九州大學 韓國研究센터에서의 研究主題는〈最近 日本에 있어서「元寇」研究의 現況〉으로 되어 있다. 이것은 13세기 고려와 몽골관계, 고려 해양사에 대한 연구, 그리고 지역사를 국가 및 다른 나라의 역사와 연계하여 재구성하는 그동안의 연구와 활동이 모두 連繫되어 있는 주제이기도 하다. 오랫동안 풍부하게 蓄積된 日本의「元寇」研究에 대한 검토는 高麗時代 역사 연구에 크게 도움이 될 뿐 아니라, 국가간 葛藤을 수반했던 동아시아 역사에 대한 문제를 13세기 역사에서는 어떠한 방향으로 풀어가야 할 것인가 고민해야 하는 주제이기도 하다. 약 4개월간(2011. 11. 16 - 2012. 3. 11) 예정의 韓國研究센터에서의 연구는 머리만이 아니고, 다리와 가슴을 함께 사용하여 공부하는 기간이 되고 있다.



**李潤相** (이윤상)  
昌原大學校 教授

- (1) 1958년 서울에서 出生하여 서울大學 韓國史學科를卒業하고 大學院에서 韓國近代史를 專攻하여 文學博士學位를 받았다. 서울大學 韓國文化研究所의 助教와 研究員, 여러 大學의 講師를 거쳐 昌原大學 史學科 教授로 在職하고 있다.
- (2) 처음에는 韓國의 財政이 帝國主義 日本에 의해서 植民地財政으로 轉換되어 가는 過程에 對한 關心을 研究의 出發點으로 삼았지만 점차 韓國 財政의 近代化 過程, 大韓帝國期 皇室財政과 政府財政의 關係, 大韓帝國期 財政運營의 變化 등으로 研究의 範圍를 擴大하였다. 最近에는 外交政策을 中心으로 한 大韓帝國의 政策 決定過程과 主導勢力, 그리고 東아시아 國家들의 近代化過程에 對한 比較에 關心을 가지고 研究하고 있다.
- (3) 이러한 研究의 結果를 整理한 主要 論著는 다음과 같다.  
韓國 近代社會와 文化(서울大學校 出版部, 2003, 共著)  
大韓帝國은 近代國家인가(푸른역사, 2006, 共著)
- (4) 당초 九州大 韓國研究센터에서 遂行할 研究主題는「19世紀後半 薩摩出身 政治家, 軍人の韓国に對する認識」으로 設定하였지만 갑작스러운 身病으로 말미암아 九州大 滞在期間이 많이 短縮되었기 때문에 큰 成果를 거두기는 어려웠다. 그러나 松原 所長님을 비롯한 연구센터 研究員들의 親切한 도움으로 앞으로 研究할 것에 대한 여러 가지 示唆를 얻을 수 있었다. 또한 宿所 부근의 香椎浜 海邊을 자주 산책하며 健康을 완전히 回復할 수 있었던 것도 多幸스러운 일이었다.

# 誤用分析：翻訳の奥深さに触れて

九州大学 比較社会文化学府 博士後期課程2年  
小島大輝

12月26日(土)から29日(火)までの4日間、韓国研究センターにて油谷幸利（ゆたに ゆきとし）先生（同志社大学・言語文化教育研究センター・教授）による集中講義が行われた。講師は韓国語学・韓国語情報処理を専門分野とし、長年、韓国語教育に従事なさっている同志社大学教授の油谷幸利先生である（あえてここでは「韓国語」と表記しておく）。講義時間が10時30分から18時10分までであったため、内容の濃い講義となった。今回の講義テーマは「誤用分析」で、取り扱う主な資料は大学で韓国語を学んでいる日本語母語話者の作文である。この作文とは、与えられた日本語の文を韓国語に翻訳したもので、韓国語の表現として不自然な部分が至るところに隠されている。それを講師・受講生各自が不自然と思われる部分を指摘・検討し、韓国語として自然な表現となるよう修正しながら、なぜそのような誤りが生じたのか、誤りを未然に防ぐには教える側としてどのような教授方法をとればよいのか、等について考えるというのが今回の講義の内容である。受講生は少人数であったが、日本語を母語とする者、韓国語を母語とする者、中国語を母語とする者のように多様であった。各々が活発に意見を交わし、議論は盛り上がった。

ところで、(おおもとの)言語資料提供者である韓国語学習者は、大学で学びながらある程度のレベルに達した中・上級者であり、翻訳する際には辞書の使用も認められていたそうである。しかし、翻訳された韓国語文に目をやると、上述の通り不自然な表現が頻繁に顔を出す。これは日本語の文に、行事や公式の場における挨拶、手紙文、日常会話での慣用的表現、ことわざ、若者ことば等がふんだんに盛り込まれてい

るため、直訳ができないことと、翻訳に必要な文化的知識が大きく絡んでくるということに起因すると考えられる。日本語母語話者にとって韓国語とは、「語順が日本語と同じだから学びやすい」と謳われる言語であるはずなのに、実際に翻訳するとすると、辞書が使えるという有利な条件下であっても、正確な訳を施すのは困難である。辞書が絶対的なものではないということや、過不足無く状況にうまく適合する語彙を選択することがいかに難しいかを思い知らされる。

最終日には日本語文を韓国語に翻訳する試験があるのだが、この試験には辞書だけでなく、スマートフォンまで使用が認められており、受講生はあらゆるツールが使用可能である。しかし、この好状況にも、たった5つの日本語文を訳するのに1時間以上もかかってしまうのである。受講生たちはこの誤用分析の講義を通して、あらためて翻訳という作業の奥深さを実感するとともに、新たに学びの面白さの発見があったのではないだろうか。またこのような機会があれば、ぜひ受講したい。



## センター関係者の刊行物紹介

新城道彦『天皇の韓国併合 王公族の創設と帝国の葛藤』  
法政大学出版局、2011年。

- 序章 見過ごされた王公族
- 第1章 韓国併合と王公族の創設
- 第2章 梨本宮方子の婚嫁計画と王公族の法的地位
- 第3章 李太王の国葬と三・一運動
- 第4章 李王の国葬と朝鮮古礼の尊重
- 第5章 李垺の散財と公家存続をめぐる葛藤
- 第6章 王公家軌範の制定と王公族の範囲
- 第7章 朝鮮貴族の家政破綻と天皇の体面



NHK取材班(新城道彦他)編著『朝鮮王朝「儀軌」  
百年の流転』NHK出版、2011年。

- 第1章 朝鮮王朝の貴重な記録「儀軌」
- 第2章 日韓皇室融合の思惑
- 第3章 「国葬」と儀軌
- 第4章 李王家末裔の願い
- 第5章 儀軌の行方は…
- 第6章 文化遺産をめぐる新たな動き



## 韓国研究センターの研究活動一覧

| 年    | 月 日             | 内 容                                   | その他                                                              |
|------|-----------------|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 2011 | 5月 8日           | 日韓海峡圏カレッジ研究会・第55回定例研究会                | 【共催】韓国研究センター・日韓海峡圏カレッジ<br>【会場】韓国研究センター 1階会議室                     |
|      | 6月 6日<br>～6月 8日 | 第7回世界韓国研究コンソーシアム・ワークショップ              | 【主催】世界韓国研究コンソーシアム<br>【助成】韓国国際交流財団<br>【会場】ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (SOAS) |
|      | 6月23日           | 全京秀 客員教授 離任(第25代)                     |                                                                  |
|      | 7月 9日           | 日韓海峡圏カレッジ講演会                          | 【共催】韓国研究センター・日韓海峡圏カレッジ<br>【会場】九州大学箱崎キャンパス・50周年記念講堂4階大会議室         |
|      | 8月 1日           | 小此木政夫 九州大学特任教授着任                      |                                                                  |
|      | 8月16日<br>～8月23日 | 2011年度日韓海峡圏カレッジ 夏季<br>キャンパス釜山         | 【主催】日韓海峡圏カレッジ<br>【会場】釜山大学                                        |
|      | 8月23日<br>～8月30日 | 2011年度日韓海峡圏カレッジ 夏季<br>キャンパス福岡         | 【主催】日韓海峡圏カレッジ<br>【会場】九州大学伊都キャンパス                                 |
|      | 9月30日           | 日韓海峡圏カレッジ国際セミナー                       | 【共催】九州大学韓国研究センター・国民大学校日本学研究所<br>【会場】九州大学箱崎キャンパス・50周年記念講堂4階大会議室   |
|      | 9月30日           | 李潤相 客員教授 着任(第26代)                     |                                                                  |
|      | 10月 1日          | 日韓海峡圏カレッジ シンポジウム                      | 【共催】九州大学韓国研究センター・EUIJ Kyushu<br>【会場】九州大学箱崎キャンパス・国際ホール            |
|      | 11月 4日          | 第56回 定例研究会                            | 【会場】韓国研究センター 1階会議室                                               |
|      | 11月 9日          | 李潤相 客員教授 離任(第26代)                     |                                                                  |
|      | 11月16日          | 尹龍燦 客員教授 着任(第27代)                     |                                                                  |
|      | 11月24日          | 申珥秀 駐日本国大韓民国特命全権大使 講演会                | 【共催】法学研究院・韓国研究センター・日韓海峡圏カレッジ<br>【会場】九州大学箱崎キャンパス文系地区・大講義室         |
|      | 12月 2日          | 県民講座「韓国の歴史と文化」                        | 【主催】韓国研究センター主催<br>【共催】(財)福岡県国際交流センター<br>【会場】アクロス福岡3F「こくさいひろば」交流室 |
|      | 12月 4日          | 日韓海峡圏カレッジ 小此木特任教授に学ぶ<br>第1回 南北分断・国際関係 | 【主催】日韓海峡圏カレッジ<br>【会場】韓国研究センター 1階会議室                              |
| 2012 | 1月30日           | 日韓海峡圏カレッジ研究会<br>「大学の韓国語教育環境の改善」       | 【主催】日韓海峡圏カレッジ<br>【会場】韓国研究センター 1階会議室                              |
|      | 2月20日<br>～2月25日 | 2011年度日韓海峡圏カレッジ 冬季                    | 【主催】日韓海峡圏カレッジ<br>【会場】釜山大学                                        |
|      | 2月28日           | 第57回 定例研究会                            | 【会場】韓国研究センター 1階会議室                                               |
|      | 3月11日           | 尹龍燦 客員教授 離任(第27代)                     |                                                                  |

### 【広報】 The XII International Scientific Meeting on Border Regions in Transition (BRIT)

“Borderland Voices: Shaping a New World Order” The 1st Conference in East Asia, Nov. 13-16 2012, Fukuoka & Busan

#### ◆Co-hosted by

- Global COE Program “Reshaping Japan's Border Studies” & Slavic Research Center, Hokkaido University, Japan /
- Research Center for Korean Studies & Faculty of Law, Kyushu University, Japan /
- Center for Japan Studies, Dongseo University of Korea

#### ◆Schedule (planned):Nov.13-16, 2012, Fukuoka, Japan / Busan, Korea

- Day 1-2: Fukuoka Symposium Nov.13 (Tue)-14(Wed), 2012
- Fukuoka International Congress Center
- Banquet hosted by the Mayor of Fukuoka City and Watching Sumo Wrestling (Nov. 13)
- Day 3: Tsushima Field Trip Nov. 15 (Thu), 2012
- Lunch hosted by Tsushima City
- Day 4: Busan Symposium November 16 (Fri), 2012
- Dongseo University
- Banquet hosted by the President of Dongseo University

#### ◆Call for Papers (The deadline is April 10, 2012)

- See more details at the web site (<http://www.borderstudies.jp/brit2012/top.html>)-



# Information

## ご投稿ください!

ニュースレターでは、できるかぎり幅広い広報を行うため、さまざまなコーナーを設け、皆様のご投稿をお待ちしています。

### 研究紹介

韓国・日韓関係にまつわる領域研究のもとでえられた具体的な研究成果を紹介します。また、韓国研究センターが支援する各種事業の成果の報告、諸分野の研究手法や研究の背景、内外で発表された優れた研究を紹介するコーナーです。

### インタビュー

座談会やインタビューで、研究者の素顔をご紹介します。

### 研究ノート

“科学者のひとりごと”“研究に関して日頃思っていること”“韓国との出会い”等々お寄せください。

### その他

関連する学会・研究会・シンポジウムの案内、近著紹介、等につきましても掲載いたしますので、随時お知らせください。

#### センター利用案内

開館時間／10:00～17:00

詳細は下記のホームページURLをご覧ください。

<http://rcks.isc.kyushu-u.ac.jp/>



#### ■最寄りの交通機関

- JR博多駅→地下鉄中洲川端乗換(貝塚行)→箱崎九大前又は貝塚下車
- 福岡空港→地下鉄中洲川端乗換(貝塚行)→箱崎九大前又は貝塚下車



#### バスのりば

- 天神14番のりば No.1、59、61、161の「九大前」行き、「月見町」行き→九大前下車
- 天神郵便局前のりば No.21～27→九大北門下車